

## 「イエス・キリストを信じるとは？」 2011 年日本デピュテーション

### イザヤ書 53 章 5 節、マタイによる福音書 11 章 25～30 節

ブリュッセル日本語プロテスタント教会牧師 岡田 直丈

聖学院大学の皆さん、おはようございます。私は岡田直丈と言います。2006 年春よりベルギーの首都ブリュッセルで日本語プロテスタント教会の牧師をしています。皆さん、ベルギーというと何を思い浮かべますか？チョコレートとワッフルとビールが有名ですね。また、どこにあるか分かりますか？北はオランダ、南はフランス、東はドイツ、西はドーバー海峡を挟んでイギリスがあります。言語は、北半分はオランダ語で、南半分はフランス語です。北の地域はフランドル地方と言いまして、「フランダースの犬」の舞台です。首都ブリュッセルは、EU、ヨーロッパ共同体の本部がある国際的な都市です。ブリュッセルには日本の某自動車メーカーやたくさんの日本企業・銀行が進出しています。また、音楽などの留学生も来ています。ですから日本人が 4 千人以上も住んでいます。

ブリュッセル日本語教会は駐在員の家族や留学生が多いので、数年毎にメンバーの入れ替わりがあり、経済的自立をすることができません。ですから、日本のいくつかの教会の経済的支援によって、私は宣教師として派遣されています。宣教師とは、本国の経済的支援によって支えられ、遣わされた地で伝道の働きをしている人のことを言います。また、宣教師は数年毎に一時帰国をして、本国のいくつかの教会で派遣されている国の伝道の報告や礼拝の奉仕をします。これをデピュテーションと言います。私は 9 月 1 日に帰国しまして、11 月 9 日まで 70 日間 70 か所の教会やミッションスクールでこのようなデピュテーションをしています。

ブリュッセル日本語教会は、はじめメンバーが約 10 名でしたが、この 5 年間で 10 名の方がイエス・キリストを信じて洗礼を受けてクリスチャンとなり、子供と合わせて約 30 名となりました。私自身は、高校二年生の時に学校で配られたギデオンの新約聖書、よくホテルなどに置いてある聖書ですが、この中でイエス・キリストの生涯と教えについて書かれている四つの福音書を読んで、イエス・キリストが現している神様の愛に心を打たれて教会に通うようになり、高校三年生のクリスマスに洗礼を受けてクリスチャンとなりました。そしてその半年後に神様の愛を伝えたいという思いが与えられて、牧師になるために神学校に進みました。今朝の礼拝では、「イエス・キリストを信じるとは？」ということについて、旧約聖書イザヤ書と新約聖書マタイによる福音書の言葉を通して、一緒に学びたいと思います。「キリスト」とは、「救い主」という意味です。旧約聖書とは、イエス・キリストが現れるまでの神様の教え、新約聖書とは、イエス・キリストが現れてからの神様の教えのことです。

まずマタイによる福音書 11 章 25 節以下の言葉に聴きましょう。

25 節ー27 節「そのとき、イエスはこう言われた。『天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。

これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任されています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません』。

イエスはある時、心を動かされて、このように賛美されました。何に心を動かされたのかと言いますと、「神の国の福音」とイエスご自身が「メシア、神の子」であることを、「知恵ある者や賢い者」には隠して、「幼子のような者」に示されたことです。「知恵ある者や賢い者」とは、当時のユダヤ教の指導者、「律法学者」「ファリサイ派の人々」を指しますが、パウロが言っているようにギリシア人やユダヤ人のような「賢い者」「知恵ある者」「学者」をも指しています(Ⅰコリ 1:18-19)。イエスが神の子救い主キリストであることが、そのような者には覆い隠されて、「幼子のような者」に示されるということです。「幼子のような者」とは、「幼児」とか「無学な者」を指します。

ここには、私たち人間がイエス・キリストを信じる時に、自分の知恵、人間の知恵によらないで、「心を入れ替えて」幼子のように、子供のようになり、あたかも幼子が親を頼りとしなければ生きてゆけないように、イエス・キリストを信じることができる、イエス・キリストを頼りとして生きることができることが教えられています。クリスチャンとは、イエス・キリストの招きの言葉に対して、自分の知恵、人間の知恵を捨て、心を入れ替えて幼子のようになり、イエスの御許に行った者のことです。このイエス・キリストの招きの言葉は、28節以下に続きます。

28節-30節「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたには安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」。

「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」。このイエス・キリストの招きの言葉によって、人類の歴史の中で、どれほど多くの人間が心を揺り動かされ、イエスの御許に行き、心に安らぎを見出したことでしょうか。私自信も、その星の数のように無数の人間の一人です。私は洗礼を受ける時、自分のこれまでの悩み、自分自身を全てイエス・キリストに委ねるような思いで、洗礼を受けました。今でも、その時の自分の気持ちを思い返すことができます。それでよかったと思っています。なぜなら、イエスご自身が、「疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」とお招きになられているからです。誰もがイエス・キリストの御許に来よう招かれています。十字架の下にあなたの悲しみ、悩み、人生の重荷を置きなさい、私の許で休みなさいと招かれているのです。私自信、教会に行き始めたのは、心の「癒し」を求めていたからでした。高校生の自分も悩みを持っていました。私には兄がいて、とても優秀な兄です。今は医師をしています。小学生の時からも周りから比較されてきて、私の心はとても傷ついていました。どうして親は兄と自分を公平に育ててくれなかったのだろうと、心は愛に飢え渴いていました。そして、聖書が示しているイエス・キリストの十字架の無限の愛を信じて洗礼を受け、心の「癒し」を経験しました。それは、先ほどお読みしましたイザヤ書 53章 5節にある「彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」という御言葉を経験したのです。

このように、十字架のイエスの招きの言葉に応じて、「癒し」や「慰め」を求めてイエス・キリストの御許に行くことができることは、私たち人間に与えられているかけがえのない恵みです。私たちは、十字

架で私たちの悲しみ、悩み、人生の重荷を全て担われたイエス・キリストを信じることによって、この世のあらゆるものも与えることのできない真の心の「癒し」と「慰め」が与えられるのです。

しかし、聖書の言葉は、私たちの心が癒される、慰められるということについてだけ教えているのではありません。私たち人間の罪が赦され、神様との関係が回復されることを第一に教えています。「疲れた者、重荷を負う者」とは、アダムとエバ以来、神様から離れてしまって、神様が私たちに求めておられる正しい生き方をすることができず、神様も周りの人も愛することのできない人間存在のことです。

そしてイエスは「わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる」と語りかけています。「わたしは柔和で謙遜な者だから」と言われていることは、単にイエスの性格を表しているのではなくて、イザヤ書 53 章 5 節が語っているイエスご自身姿のことです。こう書かれています。「彼が刺し貫かれたのはわたしたちの背きのためであり、彼が打ち砕かれたのはわたしたちの咎のためであった。彼の受けた懲らしめによってわたしたちに平和が与えられ、彼の受けた傷によって、わたしたちはいやされた」。ここで「刺し貫かれ」とは「死に至るように傷つけられる」こと、「打ち砕かれ」とは「粉々にされる」ことです。それは神様から離れてしまった私たち人間の、自分しか愛することができないというその罪を全て赦して、神様との関係を回復するためです。私たちを招いておられるイエスは、神の子であり、完全にきよい罪のない御方でしたが、私たち人間が受けねばならない罪の裁きを十字架の死で身代わりとなってお受けになりました。私たちはイエス・キリストを信じることによって神様の子供とされ、イエスと共に歩むものとされるのです。

マタイによる福音書 11 章 29 節には、「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたには安らぎを得られる」というイエスの言葉があります。「軛」とは二頭の牛や馬の首にはめて、同時に農耕具などを引っ張るために用いられた道具のことです。十字架のイエス・キリストご自身が「わたしの軛を負い、わたしに学びなさい」と言われています。十字架のイエス・キリストの招きの言葉に応じて御許に行き、罪の重荷を置かせていただくことが、まずイエス・キリストの軛を負うことなのです。このようにイエス・キリストに結ばれた者は、イエスと共に歩むようになるのです。神の独り子イエス・キリストを信じて、周りの人を愛するようにならなければなりません。ここにこの世のあらゆるものを越えた本当の「安らぎ」があります。また、イエスは「わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と言われています。イエス・キリストに結ばれているので、神の独り子イエス・キリストと周りの人を愛する力を与えて下さるのです。これが「イエス・キリストを信じる」ということです。

これは、この世のあらゆるものも与えることのできない、真実の愛と自由と平安の道です。皆さんも、この真実の愛と自由と平安の道を歩んで欲しいと心より願っています。お祈りしましょう。

2011 年 10 月 14 日 聖学院大学 全学礼拝